

JEITA

電子情報技術産業協会規格

Standard of Japan Electronics and Information Technology Industries Association

JEITA IT-3011A

プリンター用標準テストパターン Standards of Printer Evaluation Pattern

2003年3月制定

2014年6月改正

作 成

プリンター専門委員会（技術分科会）

Printers Committee (Technical Sub Committee)

発 行

一般社団法人 電子情報技術産業協会

Japan Electronics and Information Technology Industries Association

目 次

まえがき	1
1 適用範囲	1
2 目的	1
3 標準パターン一覧	2
4 対象となるテスト項目	2
5 標準パターンの使用方法	4
6 パターンの解説	6
6.1 JEITA 標準パターン J1/Ver.2	6
6.2 JEITA 標準パターン J2/Ver.2 (図 3)	7
6.3 JEITA 標準パターン J3/Ver.2 (図 4)	8
6.4 JEITA 標準パターン J4/Ver.2	8
6.5 JEITA 標準パターン J5/Ver.2	10
6.6 JEITA 標準パターン J6/Ver.2	11
6.7 JEITA 標準パターン J7/Ver.2	13
6.8 JEITA 標準パターン J8/Ver.2	15
6.9 JEITA 標準パターン J9/Ver.2	18
6.10 JEITA 標準パターン J10/Ver.2	19
6.11 JEITA 標準パターン J11/Ver.2	20
6.12 JEITA 標準パターン J12/Ver.1	21
7 プリンター・スループットの測定方法	22
解説	25
プリンター用標準パターン 出カイメージ	28

電子情報技術産業協会規格

プリンター用標準テストパターン

Standards of Printer Evaluation Pattern

まえがき

本規格は、一般社団法人 電子情報技術産業協会 プリンター専門委員会（技術分科会）が、JEITA TSC-16（電子情報技術産業協会規格類の作成基準）の様式によって作成した個別規格である。

今回の規格改訂では、新しいパターンの追加は無いが、以下の変更を行った。

(1) アプリケーションソフトの最新版への適合修正

標準パターン利用者からの問合せが多かった J1～J7 及び J9～J11（一般文書、表計算、プレゼンテーションのテストパターン）について、アプリケーションソフトの最新版に適合させるための修正を行った。

(2) 電子データを標準パターンの規格とする変更

従来は「テストパターンの見本」の扱いだった電子データを、現状の使われ方に合わせて、標準パターンの規格とする変更を行った。

(3) 電子データのヘッダーの修正

(2)の変更に伴い電子データのヘッダーを「Ver.2」に修正した。

これまでの「電子協」の表記も、現状の呼称に合わせて「JEITA」に修正した。

ただし、PDF 文書である J12 については、電子データの修正により出力画像に意図しない違いが生じる可能性が判明したため、ヘッダーを修正せず、従来の「Ver.1」のままとし、このファイルを標準パターンの「Ver.2」と見なして運用することとした。

なお、本規格は、社団法人 日本電子工業振興協会が作成した、「プリンター用標準テストパターン（第4版）：JEIDA-46-1999（平成11年3月発行）」を元に、改訂を継続しているものである。

1 適用範囲

本規格は、プリンターの特性・機能を評価・表示する際に使用可能な、標準パターンについて規定する。

ここで規定する標準パターンを使用したプリンターの特性・機能の評価方法については、この規格では規定しない。

なお、対象は下記の方式のプリンター（単機能機）及び複合機である。

- ・ドットインパクト方式
- ・電子写真方式
- ・感熱、熱転写方式
- ・インクジェット方式

2 目的

カタログ、仕様書などへ表示するプリンターの性能を評価する場合は、評価に用いるテストパターンが統一されていることが好ましい。そこで本規格は、実用に近い日本語の標準パターンを各種定義することによって、プリンターの性能表示方法の統一の一助とし、ユーザーにとって必要な性能を判りやすく評価できるようにすることを目的とする。